



ナタリー・シュトゥッツマン ©大窪道治



水戸室内管弦楽団 ©大窪道治

FOCUS

10.29(土) 10.30(日) 水戸室内管弦楽団 第97回定期演奏会
シュトゥッツマン、水戸について、
MCO について大いに語る

聞き手 関根哲也



あのナタリー・シュトゥッツマンが水戸芸術館に戻ってきます。これまでに水戸室内管弦楽団(MCO)の独唱者として3回、シューベルト〈冬の旅〉のリサイタルで1回、MCOの指揮者として1回、コンサートホールATMのステージに立ち、多くの聴衆を魅了してきた世界最高のコントラルト歌手であり、近年は指揮に情熱を注ぐスーパー・ウーマン。とりわけ、小澤征爾総監督とプログラムをシェアし、メンデルスゾーン〈イタリア交響曲〉などを振った第89回定期演奏会(2014年1月)は記憶に新しいところです。

ヴァカンス明けのシュトゥッツマンさんに、10月の共演に向けての意気込みなどを聞きました。

——これまでの水戸の印象をお聞かせいただけますか？

初めてお招きいただいて以来、私はずっと水戸芸術館を愛してきました。コンサートホールはすばらしい音響で、ステージと客席がとても近いので、大変心地よく感じます。水戸のお客様はとても教養があり、とても反応がよく、またあたたかいです。

これは、水戸市およびそこに住む人々の印象でもあります。水戸はとても静かで、穏やかな街だと思いますが、さまざまな芸術に対して偉大な伝統があります。小さなお店やレストランの雰囲気もすばらしく、例えばMCOのメ

ンバーの皆さんとよく行く家族経営のレストランなどは、心のこもったおもてなしがあり、飾り気はありませんがあたたかく、料理はお見事の一言です！

——これまでのMCOとの共演で、あなたはオーケストラのメンバーと大変親密な関係を築き上げてきました。あなたにとって、MCOはどのようなオーケストラですか？

MCOはまったく特別なオーケストラであり、そこには極めて高い演奏のクオリティーがあります。これまでの共演を通じ、ほとんどのメンバーと親しい友人になりました。

MCOには日本人の演奏家はもちろん、外国に住む日本人演奏家もいます。また、ヨーロッパやアメリカの演奏家も参加しています。このように、オーケストラの中で様々な文化が混ざり合っていることが魅力的です。

例えば、故ローランド・アルトマン氏はウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の元ティンパニ奏者で、クライバー、カラヤン、バンスタインといった指揮者のもとで演奏していた映像を、私が10代の頃から見ていたという方なのです。それ故、私が今回指揮者として、このような演奏家たちが集うオーケストラとともに音楽を作るといことは、まったく特別な事態と言えます。

——リハーサル時、指揮台であなたが

口ずさむフレーズは大変美しく、多くのメンバーを魅了しています。あなたにとって、「歌える」ことは指揮する時の「武器」になり得ますか？

ええ、指揮する時に歌手になれることは、音楽づくりを進めていくうえで武器になると思っています。なぜなら、私はしゃべり過ぎることが好きではないからです。オーケストラのメンバーは、いつでも何かを表現したいと望んでいます。音楽はある種本能的なものだと考えていますので、言葉を使って説明するより、私の声でフレーズを示すほうが好きです。演奏家の皆さんにとっても、私がこうありたいと願うフレーズを歌で聴いた方が、はるかにわかりやすいし愉快でしょう。私にとってもいい声のトレーニングになりますしね。(笑)

——前回のMCOとの共演以降、あなたは日本でサイトウ・キネン・オーケストラ、新日本フィルハーモニー交響楽団、小澤征爾音楽塾オーケストラなどを指揮していますが、あなたの師であるマエストロ小澤から何か言葉などはありましたか？

はい。私はいつもマエストロにどうやったらいいかを尋ねます。彼は細かい点を見つけ、私を助けようとし、彼のすばらしい経験をシェアしてくれます。

また、彼はとても実践的です。[オー

ケストラにとってこの振り方はわかりやすいかしら？」などと自問するような小さなポイントを、彼は正確に拾い上げるのです。

彼は常に指揮のジェスチャーをより簡素に、よりクリアにしようとしていて、私は毎回多くを学んでいます。マエストロとともにやっているすべてのプロジェクトに深く感謝していますし、彼のサポートはとても光栄で、人生のかけがえのない経験となっています。

——今回のプログラムには18世紀、19世紀、20世紀にそれぞれ書かれた交響曲が3曲並んでいます。その意図をお聞かせください。

まさに3つの世紀の3つの交響曲を取り上げることが私の意図で、音楽の進化とともに、世紀を越えてつながっている関係性を明らかにしたいと思います。

例えば、モーツァルトのすぐ後にプ

ロコフィエフを聴くことはとても面白いはずです。プロコフィエフは古典的な音楽の構造に惹かれていましたし、モーツァルトやハイドンのオーケストレーションから着想を得ていましたからね。そして、進化したように聴こえるビゼーの交響曲も、その構造は依然として古典派時代の作品ととても近いのです。

一晩で交響曲を3曲も聴くことなど滅多にないことでしょうから、とても特別なプログラムだと思いますよ。このクレイジーなアイデアをオーケストラとスタッフの皆さんが受け入れてくださって、とても嬉しいです。

——最後に、聴衆の皆様へ何かメッセージをお願いいたします。

私と言えるのはこれだけです。「水戸に戻って、オーケストラの皆さんと会い、水戸のお客様のために音楽を作ることが待ちきれない!」。水戸へ行くこ

とは我が家に帰るようなもの。日本の“家族”が私を待っているのと同じだけ、私も彼らとの再会を心待ちにしています。

2016年8月 eメールにて
(協力：ヒラサ・オフィス)

水戸室内管弦楽団 第97回定期演奏会

10/29 (土) 18:00 開場 18:30 開演

10/30 (日) 13:30 開場 14:00 開演

会場 水戸芸術館 コンサートホール ATM
全席指定 S席 ¥6,000 A席 ¥5,000 B席 ¥4,000
ユース (25歳以下) 2,000円

指揮 ナタリー・シュトゥツマン
曲目 モーツァルト：交響曲 第25番 短調 K.183
プロコフィエフ：交響曲 第1番 二長調
作品 25 (古典的)
ビゼー：交響曲 八長調

10.1 ㊦ 茨城の名手・名歌手たち 第26回 司会：宮本文昭 9組の「名手・名歌手たち」による音楽の饗宴

文 篠田大基

茨城ゆかりの優れた音楽家を紹介するオーディション企画「茨城の名手・名歌手たち」。今年5月のオーディションで合格を果たした9組によるガラ・コンサートを、10月1日に開催します。いま注目の「名手・名歌手たち」による音楽の饗宴を、ぜひお楽しみください。今回の司会は、オーディションの審査委員で水戸室内管弦楽団の元オーボエ奏者の宮本文昭さんが務めます。

今年のオーディションは、管楽器、打楽器、声楽、器楽アンサンブルを対象に審査が行われました。管楽器部門の合格者は、オーボエの山田涼子さんとクラリネットの白石はるかさんのお二人。演奏会では、山田さんはイタリアの天才オーボエ奏者バスクリが作曲した難曲《椿姫》の楽しい思い出に挑戦。他方、白石さんはイギリスの作曲家J. ホロヴィッツによる《ソナチネ》を披露します。それぞれの楽器の音色の魅力と演奏者の高い技術をご堪能ください。

声楽部門では2007年以来、9年ぶりに男声の合格者が出ました。テノー

ルのチョン・キヒョンさんが歌うロッシーニの《踊り》、バリトンの飯村泰志さんが歌うヴェルディの《リゴレット》より《悪魔め、鬼め》はオーディションで審査委員たちに高く評価された作品です。ぜひご注目を。女声は毎回激戦ですが、今年はソプラノで個性の異なるお二人が合格となりました。池田さんのやわらかな歌声と庄司さんの透きとおった歌声。それぞれの持ち味を生かした表現をお聴き逃しなく。

器楽アンサンブル部門も個性の異なる2組が合格しました。フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルンというオーソドックスな木管五重奏の編成の Ensemble Cinq Couleurs (アンサンブル・サンク・クルール) と、サクソフォン、トランペット、ピアノという比較的珍しい編成の Tsukuvago (つくばご) です。

打楽器部門の根本彩生さん(マリンバ)も、前々回の「茨城の名手・名歌手たち」ではアンサンブルのメンバーとして合格し、その後、アンサンブル

で当館の「プロムナード・コンサート EXTRA」にもご出演くださいました。ソロではどんな演奏を聴かせてくださるのでしょうか。

このように、「茨城の名手・名歌手たち」の合格者には、合格者による演奏会以降も、当館主催の様々な公演にご出演いただくことがあります。来年からは常陽銀行のご協力により、水戸市の常陽藝文ホールを会場に「茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート」も始まります。地元・茨城ゆかりの演奏家たちを、みんなで応援しましょう。

茨城の名手・名歌手たち 第26回

10/1 (土) 17:30 開場 18:00 開演

会場 水戸芸術館 コンサートホール ATM
全席自由 ¥1,500

司会 宮本文昭 (オーディション審査委員)
出演 山田涼子 (オーボエ)、白石はるか (クラリネット)、根本彩生 (マリンバ)、池田由紀子 (ソプラノ)、庄司奈穂子 (ソプラノ)、チョン・キヒョン (テノール)、飯村泰志 (バリトン)、Ensemble Cinq Couleurs (木管五重奏)、Tsukuvago (サクソフォン、トランペット、ピアノ)

10.9 日 イザベル・ファウスト&クリスティアン・ベザイデンホウト 二人の名手による珠玉のバロック・プログラム

雑誌『音楽の友』5月号の特集「絶対に聴くべきアーティスト」で、ドイツのヴァイオリニスト、イザベル・ファウストが堂々の第1位に選ばれました。「私のゴールはいつもただ単に美しい音楽を奏でるのみならず、実際に物語を伝えることです」と語るファウストの、知的探究心に溢れた演奏が、多くの聴衆の支持を得ている証拠でしょう。

イザベル・ファウスト

“考える”ヴァイオリニスト、イザベル・ファウストの原点を探っていくと、父のすすめにより5歳でヴァイオリンを始め、小さい頃から兄弟や友達とカルテットを組んでいたこと、しかも第2ヴァイオリンを受け持っていたという経歴が目にとまります。カルテットの内声を担当することで、旋律線やベース・ラインとどのようなバランスで弾くべきか、つねに考えながら演奏していたことでしょう。

元来、バリバリの“ソリスト・タイプ”ではないことも、ファウストに考える時間と余裕を与えました。15歳の時、カルテットの第2ヴァイオリンをやめ、腕試しのつもりで受けた第1回レオポルド・モーツァルト・コンクール（1987年）で優勝。これがきっかけで初めてオーケストラと共演、たくさんの刺激を受ける一方、あまり騒がれなかったことを幸いと次のように語っています。「おかげで時間をかけてレパートリーを拡げ、室内楽も引き続き楽しみつつ学業をしっかり修めることができました」。

その後、ファウストがじわじわと評価され、世界的なオーケストラ、指揮者から次々とオファーを受けるようになったことは、彼女のプロフィールに所狭しと綴られています。特に、イタリアの名指揮者、故クラウディオ・アバドからの信頼は厚く、彼の指揮するルツェルン祝祭管弦楽団やベルリン・フィルハーモニー管弦楽団と共演を重ねました。

レコーディングも活発に行っていますが、現代最高クラスのテクニックを誇るヴァイオリニストにしては、華や

かな名人芸が発揮されるようなレパートリーにほとんど関心を示さないのもファウストらしいところ。彼女のレパートリーの中心は、バッハ、ベートーヴェン、ブラームスといったドイツもの。“ソロ”でスポットライトを浴びるより、“アンサンブル”で共演者と音楽を分かち合うことを好むファウストの姿勢も窺えます。

クリスティアン・ベザイデンホウト

そのファウストが、バロック時代の作品を演奏する時、パートナーとして選んだのが、チェンバロ、フォルテピアノ、モダン・ピアノを自在に弾きわたる俊英、クリスティアン・ベザイデンホウトです。

ベザイデンホウトが一般に知られているのは、フォルテピアノ奏者としての顔でしょう。全9巻からなるCD「モーツァルト／鍵盤楽器のための作品集」は高い評価を得ていますし、日本でもフォルテピアノのリサイタルを度々開催しています。実際、ベザイデンホウトの演奏活動の約8割をフォルテピアノが占めているそうです。

また、モダン・ピアノの演奏は、2009年、クリストファー・ホグウッド指揮 NHK 交響楽団との共演で披露しています（曲目はベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番）。

チェンバロ奏者としての顔は、今回日本では初めて披露されます。「チェンバロがアーティキュレーションやアゴギクやニュアンスをいかに大切にしているかを知ったことは、大きな衝撃でした」と語るベザイデンホウトの闊達自在な演奏を期待しましょう。

プログラムと使用楽器

ファウストとベザイデンホウトが今回の来日公演に携えてくるのは、室内楽の殿堂として名高いロンドンのウィグモアホール公演でも絶賛されたというJ.S. バッハ〈ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ〉を中心としたバロック・プログラム。水戸芸術館では、その〈第2番〉〈第4番〉〈第5番〉の3曲に、フローベルガー、ビーバーとい

うバッハの先輩格にあたるドイツの作曲家の作品を組み合わせた大変魅力的なプログラムが演奏されます。ファウスト&ベザイデンホウトのすばらしい演奏により、ドイツ・バロック時代のヴァイオリンと鍵盤音楽の歴史がくっきりと見渡せることでしょう。

なお、ファウストの使用楽器は古楽器の名器で、多くの奏者が憧れるヤコブ・シュタイナー（17世紀中頃製）。ベザイデンホウトが弾くチェンバロは、バッハがケーテンの宮廷楽長をしていた時代に購入したと言われるミハエル・ミートケのジャーマン・タイプ（2段鍵盤）のレプリカ（2000年、ヤン・カルスピーク製）です。



イザベル・ファウスト ©Detlev Schneider



クリスティアン・ベザイデンホウト ©Marco Borggreve

イザベル・ファウスト&クリスティアン・ベザイデンホウト

10/9 (日) 14:30 開場 15:00 開演

会場 水戸芸術館 コンサートホール ATM
全席指定 一般5,000円 ユース(25歳以下) 1,500円
曲目

J.S. バッハ：ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第4番 八長調 BWV1017

フローベルガー：パルティータ 第12番 八長調 FbWV612a

J.S. バッハ：ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ 第5番 八短調 BWV1018

ビーバー：ヴァイオリンと通奏低音のための描写的なソナタ 長調

ビーバー：無伴奏ヴァイオリンのためのパッサカリア 短調

J.S. バッハ：ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ 第2番 長調 BWV1015

10.2 日at 15:00 Duo la Bilancia

長澤 順× 清水美和 ピアノ・デュオ・リサイタル

有名な作曲家、という皆さんは誰の顔を思い浮かべますか？ 白い髪でくるくる頭のバッハさん。いつも怒った顔、眼力強めのベートーヴェン。優等生感たっぷりのシューベルト。巨匠たちの風貌は実に個性的ですね。学校の音楽室に飾られていた彼らの肖像画を、皆さんも覚えていらっしゃるのではないのでしょうか。小さな頃の彼らのイメージは、大人になった今よりずっと単純だったような気がします。肖像画そのままに……。

外見からは想像もつかない彼らの音楽を聴いたとき、もっともっと彼らのことを知りたくなってしまいます。この魅惑的な旋律を生み出したのはいったいどんな人だったのだろう。この情熱的なフレーズを書いた時、どんな境

遇にあったのだろうか……。音楽辞典の頁をパラパラと捲ってみても、そこには彼らの生い立ちや経歴が綴られ、輝かしい業績や遺した作品の数々が連ねられているだけです。残念！ 私たちが求めているのは、もっと人間的な、日常的な彼らの姿です。こんな素敵な作品を遺してくれた彼らも人間ですから、怠けたい日もあったり、ちょっと意地悪なところもあったかもしれませんね。奥さんに頭が上がらなかつたりして……。

「天秤」という名の私たちのデュオが生まれて10年が経ちました。2人でピアノに向かう時、いつも楽譜の向こう側に息づく彼らの姿を探します。まだ私たちの知らない顔がきっとあるに違いない、と空想を巡らせながら、そ

の存在をととても身近に感じます。音楽という魔法が、遠い時代に生きた音楽家たちと私たちを繋いでくれているのです。会場に足を運んでくださる皆さまへ、まだ見たことのない彼らの横顔や後ろ姿をお届けできたらと思っています。

Duo la Bilancia (長澤 順・清水美和)



10.16 日at 14:00 第54回 あひる会合唱団定期演奏会

皆様に支えられて、第54回目となる定期演奏会を開催するのはこびとなった。今回のコンサートは4ステージ構成。最初のステージは☆スペシャルステージ〈ルネッサンス モテット〉と題し、ビクトリアやパレストリーナなど、ルネッサンス期を代表する作曲家のポリフォニー作品を演奏する。当団は、前常任指揮者 鈴木良朝氏の代からポリフォニー音楽に積極的に取り組んできた。そんな私たちに30年以上前からご指導くださったのが合唱指揮者 渡辺三郎氏。その渡辺氏を今回は客演指揮者としてお迎えすることとなった。

次を敢えて「第1ステージ」とし、〈表参道高校合唱部！オリジナル混声合唱曲集〉より4曲を、指揮：打越孝裕、ピアノ：橘知里でおおくりする。高齢化に歯止めがかからないあひる会合唱

団が高校生向けに編曲されたポップスに挑戦する。

第2ステージは、高田三郎の混声合唱組曲〈心の四季〉ハイライトを、指揮：後藤敦子、ピアノ：近森紀江で演奏する。指揮の後藤敦子は鈴木良朝氏の教え子。この曲は鈴木氏からご指導を受けた思い出の曲である。

第3ステージは、打越孝裕の指揮でフォーレ作曲の〈レクイエム〉をおおくりする。エレクトーンは小林由佳、八谷奈津美。独唱は結城滋子（ソプラノ）、清水良一（バリトン）という「水戸の街に響け！300人の《第九》」でもおなじみのメンバー。

さまざまな「顔」の4つのステージをぜひお楽しみいただきたい。

打越孝裕



10.10月・祝 高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート 吹奏楽でオーケストラの響きを

文 篠田大基

茨城県と水戸芸術館の連携で開催している「高校生のための水戸室内管弦楽団(MCO)メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート」。10月10日に、偶然ですが、通算10回目のレッスンを行うことになりました。受講生は水戸第三高等学校吹奏楽部の皆さん。総勢65名という大編成吹奏楽団です。

今回のレッスンではイタリアの作曲家オットリーノ・レスピーギの作品を特集します。レスピーギはクラシック・ファンだけでなく、吹奏楽ファンにも親しまれていて、代表作の交響詩《ローマの松》や《ローマの祭り》などは、オーケストラ原曲よりも吹奏楽版の方が、演奏される機会が多いのではないのでしょうか。今回は、とりわけ

人気の高い《ローマの松》の終曲〈アッピア街道の松〉を取り上げ、また、レスピーギが弦楽合奏のために書いた《リュートのための古風な舞曲とアリア 第3組曲》の吹奏楽編曲版から〈シチリアーナ〉と〈パッサカリア〉も併せて取り上げます。

講師を務めるのは、元読売日本交響楽団首席奏者の四戸世紀さん(クラリネット)とMCO楽団員代表の猶井正幸さん(ホルン)、NHK交響楽団団員で今年3月のMCO第95回定期演奏会にご出演された竹島悟史さん(打楽器)。さらに今回は、受講生に原曲の弦楽器のフレージングや音のニュアンスを理解していただこうと、NHK交響楽団団員でMCOにも数多くご参加くださっている猶井悠樹さん(ヴァイ

オリン)にも加わっていただきます。弦楽器についての理解を深めることで、吹奏楽のサウンドがどのように変化するのか、ぜひご注目ください。そして公開レッスンの後には恒例の「講師によるミニコンサート」もごさいます。こちらもどうぞお楽しみに。

高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート

10/10(月・祝) 14:00 開場 14:30 開始

会場 水戸芸術館 コンサートホール ATM

入場無料(要入場券)

入場券配布場所: 水戸芸術館、茨城県立県民文化センター、ノバホール

受講団体 茨城県立水戸第三高等学校吹奏楽部

講師 四戸世紀(クラリネット)、猶井正幸(ホルン)、竹島悟史(打楽器)、猶井悠樹(ヴァイオリン)

2016.7.23

ちょっとお昼にクラシック 通崎睦美の「木琴デイズ」

木琴奏者であり、吉田秀和賞受賞者でもある通崎睦美さんを迎えて「ちょっとお昼にクラシック」を開催しました。往年の名木琴奏者・平岡養一氏や木琴の歴史や魅力などについて、親しみやすいトークを交えながらの演奏会。モーツァルトなどのクラシック曲からタンゴ音楽、ピアノの鷹羽弘晃さん作曲の作品まで、幅広いレパートリーが実に表情豊かに演奏され、目でも耳でも楽しめるひとときでした。アンコール曲はボンセク(エストレリータ)。終演後は、舞台上に平岡養一氏関連のレコードや雑誌等を展示。通崎さんと平岡氏の、時を越えた運命的なつながりを感じさせる展示を、多くの方がご覧になりました。《高集》アンケートから■小学校の頃、平岡養一さんの木琴演奏を学校で聴くチャンスがありました。子どもの頃のことが思い出されて楽しい時間でした。(つくば市: T.K.さん) ■木琴が主役のコンサートは初めてでしたが、優しい音色にいやされ、全身を使ったパフォーマンスに釘づけになりました。鷹羽さん作曲の(木霊)は神々しく、音色から山や川などの情景が浮かびました。(ひたちなか市) ■『木琴デイズ』を読んで感銘を受けました。演奏を聴くことができ感動です。視覚障害をもつ知人に、大切な楽器にふれることをお許しいただきありがとうございます。一生の思い出と申しておりました。(日立市の方)

2016.8.13

ぴーすプロジェクト “水戸市平和大使による作文朗読発表会とパイプオルガン・プロムナード・コンサート”

太平洋戦争終結から71年目。風化しつつある「戦争」と「水戸空襲」の記憶を若い世代に伝え、平和の大切さを皆で考える「ぴーすプロジェクト」。その一環としてエントランスホールで、水戸市主催の「わたしたちの平和」作文コンクールで優秀な成績を取った2人の小中学生の朗読発表とパイプオルガンの

演奏をお聴きいただいた(水戸市民協働部文化交流課との共同制作)。オルガン演奏は、三原麻里さん。J.S. バッハ:〈主よ人の望みの喜びよ〉などを演奏した。平和作文を朗読したのは、花田菜摘さん(鯉淵小6年)と海老澤心華さん(茨城大学附属中3年)。《中村》

2016.8.20,21

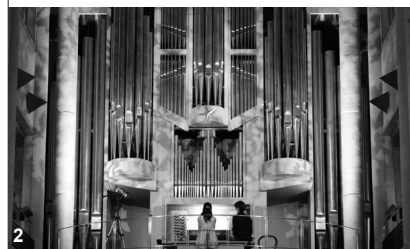
こども・こらぼ・らぼ 2016 関連イベント パイプオルガン・プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル

今年の夏休みスペシャルは20日に、国内各地で活躍中のオルガニスト・石丸由佳さんをお迎えしました。J.S. バッハ〈小フーガ短調〉等のクラシックや、“エレクトリカルパレード”に始まる楽しいディズニー・メドレーに加え、特に会場を沸かせたのは映画音楽。「インディ・ジョーンズ」テーマ曲や「スター・ウォーズ」のメドレーが、パイプオルガンで、まるでひとりオーケストラのような壮大さと迫力で奏でられました。華やかな照明演出や、手足の動きを映したスクリーンとともに、満員のお客様にお楽しみいただきました。《高集》

「世界でひとつだけの木琴を作ろう」ワークショップ&お披露目会

21日は、講師に木琴奏者の通崎睦美さんを迎えて、木琴を手作りするワークショップを行いました。まずは金槌と釘で楽器の土台となる木箱作り。そのあと、今回最も挑戦しがいのあるポイントだったのは、木片をのこぎりでカットし、自らが望む音階に調律した鍵盤を作ること。子どもたちは知恵と技をしばらくながら、長音階、沖縄風の五音音階、あるいは独自の音階など、多彩な音階の木琴を作りました。夕方には、ペイントを施した自慢の楽器をもって、一同ホールへ。夕方に「お披露目会」を開催しました。通崎さんやパーカッション奏者の飯野晶子さん・小山理恵さんとの共演で、参加者全員で、愉快で素敵な即興アンサンブルを奏でました。一日がかりで楽器を仕上げた子どもたち、終演後は、達成感に満ちた笑顔が光っていました。《高集》

最近の公演から



1: ちょっとお昼にクラシック 通崎睦美の「木琴デイズ」
2: こども・こらぼ・らぼ 2016 関連イベント
パイプオルガン・プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル
3-4: 「世界でひとつだけの木琴を作ろう」ワークショップ&お披露目会

チケット・インフォメーション

《9月24日(土)発売分》

■クリスマス・プレゼント・コンサート 2016

12/23(金・祝) 17:00開演

料金【全席指定】一般 ¥3,500 / ユース (25歳以下) ¥1,000

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

◎朴 葵姫 ギター・リサイタル

……………9/25(日)中央×、左右○

◎茨城の名手・名歌手たち 第26回(司会:宮本文昭)

……………10/1(土)自由席○

◎Duo la Bilancia ピアノ・デュオ・リサイタル

……………10/2(日)自由席○

◎イザベル・ファウスト(ヴァイオリン)&クリスティアン・ペザイデンホウト(チェンバロ)

……………10/9(日)中央△、左右○

◎第54回 あひる会合唱団定期演奏会

……………10/16(日)自由席○

◎水戸室内管弦楽団 第97回定期演奏会(指揮:ナタリー・シュトゥッツマン)

……………10/29(土)中央△、左右・裏○

……………10/30(日)中央△、左右・裏○

◎河村尚子 ショパン・プロジェクト 第4回「晩年のショパン—幻想」

……………11/12(土)中央○、左右○

◎城戸春子 チェロ・リサイタル

……………11/20(日)自由席○

◎永田絵里子 ピアノ・リサイタル

……………11/23(水・祝)自由席○

◎SUGADAIRO PROJECT vol.1 スガダイロー×山下洋輔(ピアノ)「狂演」

……………11/26(土)中央○、左右・裏○

◎イーヴォ・ポゴレリッチ ピアノ・リサイタル

……………12/17(土)中央△、左右・裏○

※8/31(水)現在の状況です。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

■高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート

10/10(月・祝) 14:30開始 入場無料(要入場券)

入場券配布場所:水戸芸術館、茨城県立県民文化センター、ノバホール

■第54回 あひる会合唱団定期演奏会

10/16(日) 14:00開演

料金【全席自由】一般 ¥1,500 / 高校生以下 ¥700

■水戸室内管弦楽団 第97回定期演奏会(指揮:ナタリー・シュトゥッツマン)

10/29(土) 18:30開演、10/30(日) 14:00開演

料金【全席指定】S席 ¥6,000 / A席 ¥5,000 / B席 ¥4,000 /

ユース (25歳以下) ¥2,000

エントランスホール

■パイプオルガン プロムナード・コンサート (入場無料)

□10/15(土) 徳田佑子 12:00~/13:30~(各回30分程度)

□10/23(日) 山司恵莉子 11:00~/12:30~(各回30分程度)

ACM 劇場

■翻訳劇『クレシダ』

10/1(土) 18:30開演、10/2(日) 14:00開演

料金【全席指定】S席 ¥6,500 / A席 ¥5,500 / B席 ¥3,500

■『日本映画が好き』10/7(金)

■第20回水戸短編映像祭+第31回水戸映画祭 10/8(土)~10(月・祝)

※詳細はチラシまたはホームページをご覧ください。

■物語の女たちシリーズ『白い犬とワルツを〜私は白い犬〜』

10/15(土) 15:00開演

料金【全席指定】S席 ¥4,500 / A席 ¥4,000 / B席 ¥3,500

■『あの大鴉、さえも』

10/22(土) 18:00開演、10/23(日) 14:00開演

料金【全席指定】S席 ¥6,000 / A席 ¥5,000 / B席 ¥3,500

現代美術ギャラリー

■「クリストとジャンヌ=クロード アンブレラ 日本=アメリカ合衆国 1984-91」展

10/1(土)~12/4(日) 9:30~18:00 ※入場は17:30まで

[休館日]月曜日 ※ただし10/10(月・祝)は開館、翌10/11(火)は休館

[入場料]一般 ¥800 / 前売り・団体(20名以上) ¥600

※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

※KENPOKU ART 2016茨城県北芸術祭との相互割引有。作品鑑賞パスポート(前売り引換券含む)および個別鑑賞券半券のご提示で、本展に団体料金でご入場頂けます。

水戸芸術館の主な10月のスケジュール

コンサートホール ATM

■茨城の名手・名歌手たち 第26回(司会:宮本文昭)

10/1(土) 18:00開演

料金【全席自由】 ¥1,500

■Duo la Bilancia ピアノ・デュオ・リサイタル

10/2(日) 15:00開演

料金【全席自由】一般 ¥3,000 / 大学生以下 ¥1,500

■イザベル・ファウスト(ヴァイオリン)&クリスティアン・ペザイデンホウト(チェンバロ)

10/9(日) 15:00開演

料金【全席指定】一般 ¥5,000 / ユース (25歳以下) ¥1,500

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000

営業時間: 9:30~18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://blog.arttowermito.or.jp/staff/>

ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場

twitter @ConcertHall_ATM

編集後記

私も木琴、作ってしまいました!…難しかった。木工の技術はさておき、鍵盤を削って微妙な音の高低を調整する作業に、翻弄されすぎました。でも、皆さんに助けられながら作った銘(迷)器への愛着はひとしおです。(り)

友人達と近所の花火大会へ。地元の花火を見に行ったのは久しぶりです。見慣れた町の夜空に花火が上がるからこそ特別感があり、テーマパーク内で打ち上げられているようなものとはまた違った楽しさが味わえました(峠)

は〜ばばば! 最近息子がよく叫びます。たぶん「パパ」の意味はまだ分かっていません。口遊びでしょう。でもそろそろ「ま〜ままま!」と言ってあげてほしいのです。後ろめたさを感じながら息子を抱き上げます。(篠)

モノをよく見ようと目を近づけると焦点がぼやけてしまう。いや〜最近来てしまいました。今困っているのはレコード針の掃除。近づけては離し、の繰り返し。MFレンズ並みのピント調整、結構目が疲れますね。(て)

のこぎりを使った木工に、娘よりも目を輝かせて取り組んでいたお父さん、誕生日を迎える弟へのプレゼントとして作っていると語ったやんちゃな少年。様々な人間模様も楽しめた木琴ワークショップの一日でした!(樹)

今夏、旧美和村の昔ながらのお屋敷に家族で1泊させてもらった。裏に流れる緒川は清らかで、水面には小魚たちが作った紋様がきらきら光る。かまどや薪で焚くお風呂も残っていた。自分にはとても新鮮な体験だった。(中)

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]

2016年10月発行 第211号

編集発行:水戸芸術館音楽部門

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130

E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp

URL <http://arttowermito.or.jp/>

編集:水戸芸術館音楽部門(五十音順) / 石井亮子

大峠百合香 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃

デザイン・印刷所:山三印刷株式会社